

## 少子化対策意見交換会の概要について

20代から30代の埼玉県民を対象にした結婚や子育てに関する意識調査を実施し、調査の結果をもとに、専門家をファシリテーターとした意見交換会を開催した。

### 【参加者】

- ・第1回 婚活中グループ 6名（現地参加6名）
- ・第2回 子育て中グループ 9名（現地参加7名、オンライン参加2名）
- ・第3回 新卒・学生グループ 6名（現地参加5名、オンライン参加1名）

### 【結果概要】

1 「結婚にあたり県や市町村に環境面で実施してほしいこと」という質問に対し、最多の回答であった「結婚を希望する社会的気運醸成」について、どういう施策を行ったら社会的機運醸成に繋がるか

#### （1）第1回 婚活中グループから出た主な意見

- ・埼玉県は男子校、女子校が多く、異性と交流する機会が少ないため、学校同士が交流できるイベントを行政側で用意する。
- ・社会人になったら出会いが圧倒的に少なくなるため、学生のうちから恋活をしておいた方が良いことを、ライフデザイン教育等で周知しておく
- ・参加者の年齢制限をかけた上で、趣味などで区分したイベントを開催する

#### （2）第2回 子育て中グループから出た主な意見

- ・結婚適齢期に対する支援は比較的充実してきたものの、20代前半の若い世代や、適齢期を過ぎた世代に対する支援が少なく、結婚や子育てを行っていない人に業務の負担が集中しており、不公平感があるため、労働時間に対する規制を行政側で設けて不公平感をなくす。
- ・業種によっては男女の構成比に偏りが生じているため、異業種との交流会イベントを行政側で用意する。
- ・趣味で繋がることのできる社会人サークルを自治体で設ける。
- ・「結婚は簡単だ」と考えている比較的高齢の世代の意識改革を、経営者向けの講演会等で行う。
- ・出会う場があっても交際まで繋がらないことも多いため、支援員やAIによるおすすめの会話術について指導する。
- ・子育ての「大変そう」というイメージが強い上、収入が増えるほど各種助成が支給されなくなる不公平感があるため、助成は全員に対して実施する。

(3) 第3回 新卒・学生グループから出た主な意見

- ・結婚にあたり、お金をある程度貯めておかないと結婚できないというイメージがあるため、早く結婚することによるメリットや、早く結婚しても生活していけることについて周知する。
- ・子供が生まれた後の支援はあるものの、結婚をすることに対する支援があまりないため、結婚をした方に抽選で旅行券をプレゼントするなどの支援を行う。
- ・親や祖父母から結婚に対する悪い意見しか聞いておらず、結婚自体を躊躇してしまうため、結婚に対する良い意見の体験記などを周知する。
- ・仕事で成功することが一番偉い、という風潮があるが、結婚して家庭を持つことも同じくらい重要であるということについて周知する。ワークライフバランスの重要性について更に呼びかける。

2 多子世帯応援クーポン事業について、事業の認知度や有効性について

(1) 第1回 婚活中グループから出た主な意見

- ・5万円をもらえるから第3子を持ちたい、とはならない。
- ・単発の支援より継続的な支援の方が嬉しく感じる。
- ・一人っ子の私でも、両親には多大な苦勞をかけており、第3子は果てしなく感じる。一人目からの支援の方が好ましい。

(2) 第2回 子育て中グループから出た主な意見

- ・パパママ応援ショップと比べると認知度が低く、使用制限のある中途半端なチケットなら、明石市のような現物支給の方がありがたい。ステップアップ形式で、第1子1万円、第2子2万円、のように、第1子から貰える形式が良い。
- ・第3子はハードルが高すぎる。多子世帯だけでなく、子育てをしている世帯に平等に支援した方が、行政から子育てについて応援されていると感じる。
- ・子供が4人いるが、この事業について知らなかった。出生届を提出した際にこのチラシを貰ったかもしれないが、他にも複数のチラシを貰っており、チラシの配布の他、口頭でも説明をいただきたかった。

(3) 第3回 新卒・学生グループから出た主な意見

- ・第1子や第2子の時点で何かしらの経済的支援があったら、第3子以降も、という気持ちになるが、第1子や第2子への支援がなく、マイナスのイメージしかない、そもそも第3子を持ちたいとはならない。
- ・予算的な制約で難しいかもしれないが、額を変更しても良いので、1万円でも第1子からの支援とした方が良い。
- ・申請期限について1年となっているが、多子世帯の場合、上の子の世話や学校行事、PTA等でかなり忙しく、あっという間に1年が経過してしまうため、期限はもう少し長い方が

良い。

### 3 恋たまについて、事業の認知度や有効性について

#### (1) 第1回 婚活中グループから出た主な意見

- ・マッチングアプリやマッチングシステムを比較掲載したサイトに、「登録者数が少ない」、「AI マッチングについて、週1回紹介が来るとなっているが、登録しても紹介が来る週と来ない週がある」、「自分で検索し、相手に申し込める回数に制限があり、活動できる量が少ない」などのマイナス意見が掲載されている。今回無料キャンペーンということで入会したが、まだ現時点ではAIからの紹介がなく、不安に感じている。手動で検索できる回数はもう少しあった方が利用しやすい。
- ・まだ仮登録の段階だが、成婚数200組が少なく感じてしまい、登録を躊躇している。結婚や婚活という単語が重く感じてしまうため、恋愛や恋を全面に打ち出した方が、若い世代が利用しやすい。
- ・所属している社長からの紹介で登録した。独身証明書や所得証明の提出について、面倒な部分もあるが、その代わりに安全性が担保されており、県という公的機関が後ろにいるという安心感もあって良い。
- ・母が市報に掲載されていたのを見て紹介され、今回加入した。通常のマッチングアプリと比べ、公的な支援サービスという安心感があって良い。
- ・以前、別のマッチングサービスで高齢の男性から執拗に迫られた経験があり、しばらく活動をしていなかった。イベントやシステム登録者については、ある程度年齢制限があった方が参加しやすい。

#### (2) 第2回 子育て中グループから出た主な意見

- ・社内ではポスター掲示をしているが、外部では見たことがなく、メディア露出が少ないように感じる。独身の知り合いに紹介したことがあるが、評判は良かったので、もの自体は良いと思う。Youtubeで強制的に表示される広告等で宣伝すれば、もう少し認知度が上がるのではないかな。
- ・独身証明書や所得証明を提出させていることの安全性をもっとアピールすべき。
- ・協賛団体が少なく感じるため、協賛団体を増やし、協賛団体を通じて周知することで、認知度も上がるのでは。
- ・行政が実施しているということで固く、少し上の世代を対象としている印象がある。行政としては一律に高齢の登録者を切り捨てることは難しいかもしれないが、それとなく若い人向けというイメージにして、高齢者が登録しにくくなるようにした方が良い。

令和4年7月7日

#### (3) 第3回 新卒・学生グループから出た主な意見

令和4年7月7日

- ・認知度の向上について、未婚者の目に触れる場所として、他のマッチングサービスに広告を掲載してはどうか。
- ・対象者を埼玉県在住に限定しているが、地域の壁がない方が登録者も増え、活動も活発になる。田舎の自治体は県外への人口流出を防ぐために、そういった地域制限をかけていると思うが、埼玉県は人口が流入してくる側であり、制限はなくても良いのでは。
- ・テレビでの広報が一番安心感を与えられると思う。広報に関するコンペ企画があればぜひ応募したい。

#### <まとめ>

多子世帯応援クーポン事業については、参加者21人中20人が第3子からではなく、第1子から支援するべきとの意見だった。

また、ファシリテーターからも、第1子を産むか生まないかが人生の最大のライフイベントである。金額は少なくとも第1子から「子供を生んでくれてありがとう」という感謝の気持ちを表すべきである。なお、クーポン事業は子育ての気運醸成が目的であり、経済的支援とは言えないと考える。たった5万円で経済的支援というと、もらう方は馬鹿にされているように捉える人もいると思う。第3子出生に対して、仮に5000万円を県が支給しても、出産後に仕事を辞めてしまったら、生涯所得はこの5000万円以上の損失である。子育てしながら働き続ける企業としての努力も重要であると考え。との意見をいただいた。